

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研 究 テーマ	次世代を担う人材育成を目指した看護学教育 DX プログラムの検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	鈴木 郁美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	前野 真由美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長谷部 美紀
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	植田 春美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	星 有紀
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	鈴木 郁美

講演題目
看護基礎教育におけるシミュレーション教育の現状と課題：国内文献レビューと海外視察の比較
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】医療現場では在院日数の短縮化や医療技術の高度・専門化に伴い、看護師は高い看護実践能力が求められる。しかし、看護基礎教育における臨地実習の教育時間の減少に加え、患者の権利や医療安全の観点から学生が臨地実習で経験できる技術に制限があり、臨床と教育における看護実践能力には乖離が生じている。この課題に対応するため、厚生労働省（2011）は「臨地実習で経験できない内容は、シミュレーション等による学内演習で補完することが求められる」と看護基礎教育におけるシミュレーション教育を推奨している。さらに、COVID-19 の影響により臨地実習の機会が制限され、多くの教育機関でシミュレーション教育が代替手段として導入され、その重要性が改めて認識されるようになった。今後、看護基礎教育においてますます加速化されるシミュレーション教育の現状と海外視察の結果と比較し、今後の課題を明らかにする。 【研究方法】医学中央雑誌 Web 版を用いて、看護基礎教育におけるシミュレーション教育に関する国内文献を検索・分析した。期間は 2024 年までの過去 10 年間とし、シミュレーション教育の方法・場面、評価や課題などに関する記述を抽出した。また、2024 年 12 月に海外の看護系大学のシミュレーションセンターを視察し、シミュレーション教育の実践内容について情報収集した。 【結果および今後の展望】国内文献の分析から、シミュレーション教育におけるシナリオ設計や評価に関する報告があった。シミュレーション教育におけるデブリーフィングの学習効果の重要性は認識されているが、教育者のスキルに依存していることが課題として挙げられた。一方、海外視察では、シミュレーションセンターには専任教員が配置され、録画された動画の視聴を活用するなどデブリーフィングを強化する取り組みがなされていた。シミュレーション教育は経験学習であるため、学習者同士の協働によるデブリーフィングが最も重要であり、その質の向上や標準化が課題である。